

6年目のsaculaさん。



特定非営利活動法人コミュニティ・スペースsacula
2022年度活動報告

ご挨拶

いつもsaculaと一緒に支えてくださり、誠にありがとうございます。

2022年度は新しく下京区に2拠点目をかまえ、新しいつながりやきっかけに多く出会えた1年でした。

西京区のこれまでのつながりはもちろん、下京区でも、地域の方々とのご縁に恵まれ、たくさんの応援やご支援をいただきながら活動を行うことができております。感謝申し上げます。

年々、saculaで働きたい、一緒に活動したいと言ってくれるスタッフも増え、関わる子ども・若者も増え、ますますにぎやかになる一方で、衣食住に関する待ったなしの相談も増えてきました。これまで若年女性を中心に相談サポートを行なってきましたが、若年男性やLGBTQの相談も増え、「私たちがジェンダーの制限を設ける必要がないのでは」と、対象の限定をなくし、また、ほぼ毎日新拠点を開けることによって、若者たちが必要とするタイミングでsaculaと直接つながれる場所をつくることができたおかげで、より多くの子ども・若者と関わるできるようになりました。

ジェンダーや年齢、生活環境や経済面等でやりたいことを諦めざるを得ない、そんな声を度々聴いたこの1年。私たちにできることは微力かもしれませんが、そっと背中を押したり、一緒に立ち止まって振り返ったり、モヤモヤも一緒に話せるような、そんな法人であり続けたいと思っています。

これからも、子ども若者、地域の方、スタッフも含めて「安心できる場所」をつくり続けることができるよう、私も尽力してまいります。

7年目は、相談が急増している「住」のニーズにより応えていけるよう、準備を進める1年になるかと思います。日ごろから支えてくださる皆さまとともにこれからも進んでいけるよう、応援していただけますと幸いです。

引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

NPO法人コミュニティ・スペースsacula

代表理事 木村友香理

コミュニティ・スペースsaculaは

居場所や相談サポートを通じて

子どもや若者が

【挑戦する理由】や【できること】をみつけ

色々な『達成』や『経験』ができる世の中を目指しています。

🌸 もくじ 🌸

1. はじめに

ご挨拶 ... 1

私たちの活動理念 ... 2

saculaさんの足あと ... 3

2. 活動報告

西京区の居場所 ... 7

下京区の居場所 ... 9

すずなりランタン ... 13

相談・サポート ... 15

これからのsaculaさん ... 16

3. インタビュー

居場所チーム ... 17

報告会対談 ... 21

4. 広報

広報 ... 27

会計報告 ... 28

special Thanks ... 29

【私たちの活動理念】

自分の悩みや、自分のことを誰かに話すことって、とても勇気がいることはありませんか？

専門家などに「何でも相談してくださいね」と言われても、その相手のことを知らなければ、なかなか話せないものです。まず相手との信頼関係ができていないと難しいと感じる人もいるのではないのでしょうか？

思うように「話せない」「伝わらない」「わかってもらえない」など、話すことに疲れて諦める子ども・若者もいます。

NPO法人コミュニティ・スペースsaculaは【「専門性」より「関係性」】を共通理念とし、「この人になら、ここでなら、話してもいいかな」と思えるような、関係性を重視した居場所や相談サポートを通じて、子どもや若者をエンパワーメントできるよう、活動を続けています。



saculaさんの足あと



2016年

- 10月 コミュニティ・スペースsacula 設立
- 12月 ハンドメイドショップさくら 開始

2017年

- 4月 ひまわり食堂 開始
- 8月 みにひまわり食堂 開始
事務局 開設
- 9月 学習スペースすみれ 開始
- 12月 フリースペースクローバー 開始

2018年

- 4月 LINE相談 開始
- 8月 のんびりスペーススイートピー 開始
- 11月 若年女性のご飯会ミモザ 開始



2019年

8月 フリースペースクローバー番外編キャンプ 開催

2020年

3月 若年女性の自立サポートシェアハウス サクラソウ 開始

10月 対人援助者交流会オリーブ 開始

11月 若年女性のお泊まり会あさがお 開始

2021年

2月 レスパイト・ケア ポピー プレスタート

3月 特定非営利活動法人 コミュニティ・スペースsacula 設立

2022年

8月 秘密基地すずらん
カフェバー&レンタルスペースすずなりランタン オープン



saculaの活動

西 京区の居場所



みんなの食堂
ひまわり食堂



夜の食堂
みにひまわり食堂



フリースペース
クローバー



レスパイト・ケア
(トワイライト・ステイ)
ポピー



学習スペース
すみれ

下 京区の居場所



日中ののんびりスペース
スイートピー



子ども若者の秘密基地
すずらん



若者のご飯会
ミモザ



若年女性のお泊まり会
アサガオ



対人援助者交流会
オリーブ

カフェバー & レンタルスペース



すずなりランタン



カフェ&バー



1日店長



レンタルスペース

昼はモーニング・ランチ、夜はおばんざいやお酒をたのしめるだけでなくイベントやマルシェなどの「レンタルスペース」として、そして、誰でもこのカフェバーの店長にチャレンジできる「日替わり店長バー」としてどなたでもご利用いただけます。

【すずなりランタン】での就労サポート

「仕事のお試し」として、相談に応じてカフェバーで短期～長期働くこともできます♪

色んな方の「やりたい!」を実現したり、みんなで応援しあう場です♪



相談・サポート



若年女性の自立サポートシェアハウス【サクラソウ】

『これから』を応援し、安心して『いま』の日常を送れるようにサポートします。（京都市内、住所非公開）



相談・サポート（SNS・電話・アウトリーチ）

子どもや若者、家族が抱えるモヤモヤをソーシャルワーカーと一緒に考えます。

2017・04
START



みんなの食堂 ひまわり食堂



食事だけでなく【遊び】も重視。
子どものやりたいを大切に
しています。

参加者の声

- ・毎月ここにきてみんなで遊ぶのが楽しいし、楽しみ！
- ・スタッフさんと一緒に食べる以外にも、地域年齢を超えて話したり遊んだりできるので参加させてもらっています。

日時・場所

- ・日時
毎月第1日曜日 11:00～14:00
- ・場所
川岡東自治会館
- ・対象
主に学区内の方
- ・参加費
おとな 300円
18歳以下 無料

2022年度
利用延べ人数

98人

2017・08
START



夜の食堂 みにひまわり食堂



子どもも大人も「ゆっくり」と。
【みに】だけど
【みに】じゃない場所。

参加者の声

- ・みにひまのお弁当がおいしくて楽しみ。
- ・子どもの分のご飯をいただけるのはありがたいです。ありがとうございます。

日時・場所

- ・日時
第3水曜日 17:00～19:00
- ・場所
sacula事務局
- ・対象
主に学区内の方
- ・参加費
おとな 300円
18歳以下 無料

2022年度
利用延べ人数

82人

2017・12
START



フリースペース クローバー



長期休暇などで
「誰かと一緒にいたい」
そんな時に、スタッフやボラン
ティアたちと楽しくゆっくり過ごす
場所です

参加者の声

- ・休みの日にみんなと
ボードゲームとかで遊べて
楽しい！
- ・日中に子どもたちから離れて
ゆっくり過ごすことが
できるので
親もリフレッシュできています。

日時・場所

- ・日時
長期休暇（火・木） 10:00～17:00
- ・場所
sacula事務局
- ・対象
誰でもどうぞ♪
- ・参加費
お昼ご飯代 100円

2022年度
利用延べ人数

46人

2019・08
START



クローバー番外編 キャンプ・デイキャンプ



大自然で遊んで笑って！
ゆっくりのんびり過ごす
野外イベントです

参加者の声

- ・初のお泊りに参加できて本当
に喜んでいました。
- ・子どもの様子を知って
いただいている
スタッフさんなので
安心してお任せできました。

日時・場所

- ・日時
デイキャンプ（GW）9:00～17:00
キャンプ（夏季休暇）12:00～翌17:00
- ・場所
京都府南丹市
みんなのふるさと
- ・対象
saculaの活動に
参加したことがある方
- ・参加費
デイキャンプ 500円
キャンプ 2,000円

2022年度
利用延べ人数

10人

2017・09
START



学習スペース すみれ



みんなで勉強したり、一息ついて
遊んだり、楽しくいろいろな
ことが学べる場所です。

参加者の声

- ・家とはまた違った場で課題に
取り組めるところがいいと
思います。
- ・いつも勉強をみていただいて
ありがとうございます。

日時・場所

- ・日時
木曜日（不定期） 16:00～18:00
- ・場所
sacula事務局
- ・対象
主に学区内の小中学生
- ・参加費
無料

2022年度
参加延べ人数

15人

2018・11
START



若者のご飯会 ミモザ



「なにかしたいなあ」
「誰かと話をしたい」
「みんなとわいわいしたい！」
参加理由はなんでもOKの
みんなで楽しくご飯を食べる会です

参加者の声

- ・お互いの名前くらいしか
分からないので、
みんなとどう接したらいいのか
戸惑ったけど、
みんなでご飯を食べたり、
ボードゲームで遊んだり、
ミモザの時間は
楽しく過ごせたなって感じます。

日時・場所

- ・日時
毎月第1土曜日 11:00～14:00
- ・場所
すずなりランタン
- ・対象
若者
- ・参加費
無料

2022年度
利用延べ人数
(11月・12月開催)

7人

2018・08
START



日中ののんびりスペース スイートピー



学校に行けない・行かない子もこ
れる日中の居場所です。
家以外にも行けるところが欲しい、
学校以外の友達が欲しい人が来ま
す。

参加者の声

- ・とてもアットホームな
雰囲気家でいるみたいで
ゆっくりできる。
- ・子どもの気配がするけれど、
少し離れて過ごせる場は
貴重で嬉しい。

日時・場所

- ・日時
月一回 10:00 ~ 16:00
- ・場所
すずなりランタン
- ・対象
平日日中に参加
できる方なら誰でも
- ・参加費
無料（ランチ代等別途）

2022年度
利用延べ人数

47人

2022年10月より、スイートピーを再開しました。

よりたくさんの方の居場所になれるよう、「will be smile」さんにお声かけし、共同開催でおこなっています♪

【will be smile～不登校から多様な学びを考える親の会@大津って？】

will be smileでは、お子さんの不登校や行きしぶりなどで困っておられる保護者さまのサポートや、ホームエデュケーション家庭のサポートとネットワーク作り、親子活動などを行っています。

お子さんが学校に行かなくなった、行きにくいようだという現実を目の当たりにしたとき、どうしても不安になりますよね。でも、私たちは知っています！ ゆっくりと休んで心のエネルギーを回復した子は、再び自分の力で歩き始めることを。特別なことなどしなくても、普通の家族、当たり前親子、何気ない日常にその力があることを。そのためには、保護者さんご自身が孤立せずに安心して暮らせることも大切。ここには、あなたと一緒に泣いたり笑ったり気持ちを分かち合いながら、共に子育てできる仲間がいますよ^^

【のんびりスペーススイートピー共同開催者より】

2022年、のんびりスペーススイートピーを共同開催することになりました。

親の会では、「家に居る子どものお昼ごはんの用意が大変」「時には親も息抜きが必要」という話題が共有されることが多いです。

スイートピーでは、2階ではゲームや漫画で遊べるスペース、1階ではランチやお茶をしながらまったりできる、親と子どもが別々に過ごせるスペースがあります。子ども単独での活動に不安がある子も、親と一緒に、という安心感が、スイートピーの利用につながっています。

まだ始めて半年ですが、ここでの出会いがきっかけとなってwill be smileの活動の参加に繋がるというケースが早くも出てきました。

子どもが不登校になると、親も子も地域の中で孤立しがちです。不登校の子を支援するフリースクールなども増えていますが、まだまだ一般的でない場を利用するには、親も子も参加までの心理的ハードルが高いと言えます。

支援、という大層なものではなく、「もっと気軽に繋がって良いんだよ」と、スイートピーの活動を通して多くの方に知っていただけたら、これ以上嬉しいことはありません。

●will be smile ～不登校から多様な学びを考える親の会@大津

●びわフリ ～びわ湖フリーわいわい

世話人 大町千恵

2020・10
START



援助者交流会 オリーブ



若手対人援助職者の日頃の活動・
仕事での疲れをボードゲームや
様々なイベントで
リフレッシュします。

参加者の声

- ・楽しい時間で気持ちを
リフレッシュすることが
できました。
また参加したいです。
- ・初めましての人とも
楽しく遊ぶことができて
面白かったです！

日時・場所

- ・日時
毎月第2土曜日
昼の部 13:00～17:00
- ・場所
すずなりランタン
- ・対象
対人援助職者の方
- ・参加費
無料

2022年度
利用延べ人数

20人

今年度休止事業

2020・11
START



若年女性のお泊り会 あさがお

誰かと話したい、話すのは苦手だけど
誰かと居たい、家から離れて過ごした
い
そんな人たちが集まって
のんびり過ごすお泊り会。

2021・02
START



レスパイトケア (トワイライト・ステイ) ポピー

子どもとサポーターがマンツーマンで
関わることで保護者の子育てレスパイ
ト（一時的休息）を行います。

今年度開始事業

2022・08
START



子ども若者の秘密基地 すずらん



すずなりランタンの2階を
子ども若者の秘密基地として、
自由に過ごすことができます。

本人のニーズに応じて、
1階のカフェ&バーの掲示物作成
や掃除などの手伝いをしたり、
お客さんとお話ししたり、体験的
関わりやいろいろな方との
コミュニケーションを
とることもできます。

参加者の声

- ・昔ながらの家で落ち着く。
家やん。って思った。
- ・気軽に家以外で過ごせるし、
1階でご飯が食べれるので食事を
しっかりとれるようになった。

日時・場所

- ・ 日時
日曜日～金曜日 9:00～22:00
- ・ 場所
すずなりランタン
- ・ 対象
子ども、若者
- ・ 参加費
無料

2022年度
利用延べ人数

96人

2階

sacula新規事業「秘密基地 すずらん」

2階の若者が、就労体験の場として
1階事業のお手伝いをするこも

1階

新しい自分に出会える場・きっかけの場
「すずなりランタン」

食・イベント・趣味など、様々なことに
チャレンジする「きっかけの場」



カフェバー&レンタルスペース すずなりランタン



カフェ&バー



9:00~22:00まで開店している

カフェ&バー

いつでも美味しいおばんざいを
食べることができます。

いつでもふらりと来れる場所です。

常連さんの声

・美味しいおばんざいを
いただきました。
ありがとうございます！

・アットホームな雰囲気で
いつもゆっくりできています！

営業時間・住所

・営業時間
9:00 ~ 22:00
(21:30LO)

・定休日
土曜日

・住所
〒600-8837
京都市下京区夷馬場町45-10
(地図：裏表紙参照)

ギフトカレー

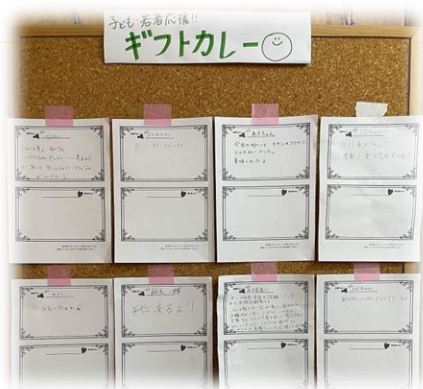
『送った人も受け取った人も、思いを感じあ
える寄付の見える化』として、カフェバーを
利用してくださった方がお会計に
+100円で『ギフトカレーチケット』を購入
することができ、そのチケットを利用すると
子ども若者が無料でカレーを食べることが
できる仕組みを作りました。

送る人の声

・おいしいカレーを食べて
しあわせまんぷくに
なってください！

受け取った人の声

・おいしかったです。
まいにちたべたいです。



2022年度
利用延べ人数

81人

2022年度
購入延べ人数

223人

あなたもすずなりランタンを
レンタルしてみませんか？

レンタルスペース



すずなりランタンのカフェスペースを
レンタルスペースとして
貸し出しています。

利用者の声

・誕生日会で利用しました。
みんなで楽しく過ごせました。

・子ども向けイベントを
開催しました。
みんな楽しく参加してくれて
良かったです。

申し込み

- ・ 時間
9:00 ~ 17:00の間
- ・ 定休日
土曜日
- ・ 料金
1時間1,000円～
- ・ 申し込み
すずなりランタンにて
もしくは、お電話にて承ります。
(080-7835-8318)

コンセプトは
新しい自分に出会える
きっかけの場

日替わり店長



気軽に『自分のお店』を
始めてみませんか？
コンセプトなどはあなたらしく
身一つで始めることができます。

店長の声

- ・ お客さんと飲みながら
楽しく出店できました！
- ・ 一人だけではできない貴重な
経験をさせていただき
ありがとうございました！

申し込み

- ・ 時間
昼の部 9:00 ~ 17:00の間
夜の部 17:30 ~ 22:30の間
- ・ 定休日
土曜日
- ・ 場所
すずなりランタン
- ・ 出店料金
昼の部 1,000円/1時間
夜の部 8,000円/5時間
- ・ 申し込み
すずなりランタンにて
もしくは、お電話にて承ります。
(080-7835-8318)



若者の自立サポート

シェアハウス【サクラソウ】



相談サポートの中で「家から出たいけどきっかけがない」「ひとり暮らしの練習がしたい」という声を聴き、
女の子一人ひとりが『今』と『これから』に向けて第一歩を踏み出すきっかけとなれる場としてスタートしました。

2022年度からは、ジェンダーを限定せず対応しています。

公的機関の支援対象にはならない【グレーゾーン】で悩む子に対し、原則2年の入居を通じてひとり暮らしの準備をスタッフやピアサポーターと一緒に進めていきます。

2022年度は、入居者1名
短期宿泊者15名が
サクラソウを利用しました。

入居者の声

・サクラソウに入居してから、
自炊やものづくりなど
新しいことに
挑戦できて楽しいです。

相談・サポート

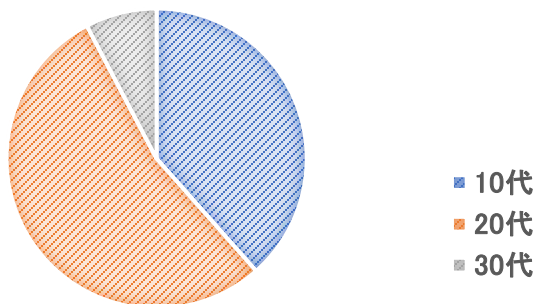
SNS・電話・アウトリーチ

子育ての悩みや人間関係、学校や家族、
こころのことや金銭面のことなど。子
どもや若者、家族が抱えるモヤモヤを
ソーシャルワーカーやカウンセラーが
一緒に考えます。

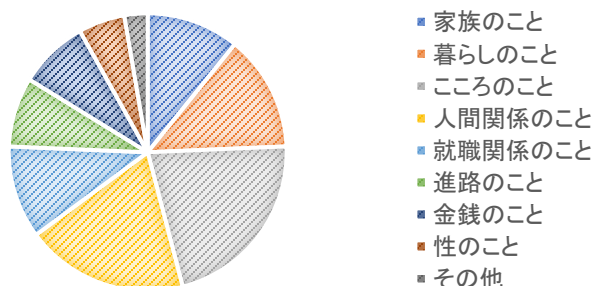
ソーシャルワーカーとは？

生活するうえでの困りごとや不安、
孤立に対して話を聴きながら関係を
構築し、ひとりひとりの「困りごと」の
背景をみながら問題解決のために
サポートや関係機関へのパイプ役等
をする専門職です。

2022年度相談者年齢



相談内容（複数選択）



これからのsaculaさん。

2023年度

「若者の次のステップ」の応援として
就労サポートと自立サポートに
力をいれていきます✿

2022年夏にオープンしたカフェバー&レンタルスペース「すずなりランタン」と「若者秘密基地すずらん」。

この半年余りで出会った若者たちから、仕事のことや住まいのこと、人間関係のこと、「みんなはできているのに自分はできていない」など、「大したことじゃないんだけど…」と言いながら、彼らにとって重要な悩みを打ち明けてくれる機会がたくさんありました。

そんな様々な声を受け、2023年度のsaculaは、若者の就労サポートと自立サポートに力を入れていきます。

✿ すずなりランタンをはじめとした就労サポート
saculaでは、現在以下のような就労サポートをおこなっています。

- ・すずなりランタンの備品準備や掃除、買い出し
- ・お客さまへの接客、調理補助
- ・パソコン作業
- ・お客さまに提供するお菓子の製作や、店頭やマルシェで販売するアクセサリ作り
- ・すずらん子ども食堂などsaculaイベントのお手伝い

今後は、製作物を店頭やマルシェで販売する機会を増やしたり、若者に合わせて就労の種類を増やしたりと、若者の活躍の場をよりつくっていきます。

✿ 若者の自立サポート
現在サクラソウでは、若者の自立に向けて下記の取り組みをしています。

- ・短期目標、長期目標を若者の課題と照らし合わせながらソーシャルワーカーと一緒に考える
- ・掃除・家事など、基本的な生活スキルの習得
- ・saculaピアサポーターと一緒に掃除やお菓子作りなどを行う

✿ サクラソウ設立時は、女性の自立サポートを目的としていましたが、男性やLGBTQの方からの相談が増えたことから、現在では宿泊対応に限り、ジェンダーの垣根を外した受け入れ態勢に移行しました。

しかし、相談数の増加に伴い現在のシェアハウス一軒だけでは対応できなくなってきました。

今後は、現状のシェアハウスに加えてアパートの個室を借りて、よりリアルに次のステップを考えることができる自立サポートの場を設けることを計画中です。

個室を借りることで、プライバシーをより尊重しながら、一人暮らしを想定したサポートを取ることが可能になります。

若者のサポートや、サポート体制の移行にはまだまだ課題がたくさんありますが、2023年度も子ども若者が自分らしく過ごしながら、色々な『達成』や『経験』ができる世の中を目指すためにスタッフ一同取り組んでいきます。



【スタッフ間インタビュー】

主に【ひまわり食堂】に関わる居場所チームで、普段お子さんと一緒に参加してくださっている理事も交えてスタッフ間インタビューを行いました。

普段お互い活動への思いを話す機会はなかなかないので、新鮮だった！という声も。ぜひご覧ください♪



理事

深川さん



副代表理事・居場所チームリーダー

ひーちゃん



ボードゲームのおにいさん

うっしー



saculaの癒し担当

さつきちゃん

深川さん

まず、それぞれsaculaスタッフになった動機とかsaculaでの関わりを最初に伺えればと思います。

さつきちゃん

きっかけは、3年前にsaculaの【若年女性ご飯会 ミモザ】に参加させていただいて。それからしばらくは関わることはなかったんですけど、2022年4月にsaculaのFacebookとかを見て、ボランティアとして関わりたいと思って、連絡をして、そこからスタッフに誘っていただいて、現在スタッフになっています。

深川さん

ありがとうございます。最初のきっかけはミモザに参加してだけで、もともと子ども食堂などにも関心があったとか？

さつきちゃん

もともと子どもと関わることはしてみたいなあと思っていました。

子ども食堂とかも興味ありました。初めは【みにひまわり食堂】のお弁当づくりのお手伝いをやっていたんですけど、そこからスタッフになって、【ひまわり食堂】や【フリースペース クローバー】にも関わらせていただいて、今は、新拠点の【秘密基地 すずらん】や【カフェバー&レンタルスペースすずなりランタン】の方がメインになってる感じです。

どんどん引きずり込まれています。笑

うっしー

僕のきっかけは、ちょうど僕が仕事を辞めている時です。辞めている間に子どもの居場所支援のことをやりたいなって探していた時に、saculaのホームページを見つけました。

そこでひまわり食堂にボランティアで行かせてくださって連絡したのが1番最初ですね。

今ではひまわり食堂や【対人援助者交流会 オリーブ】も担当しています。

深川さん

代表や副代表と直接知り合いだったわけでもなく？

うっしー

saculaのホームページを見つけて、なんか雰囲気とか良さそうだなって思って、行かせてくださいとメールしました。その後ひまわり食堂のボランティアに2,3回参加したんですけど、別のNPOに就職したのでちょっとの期間僕も空いたんですよ。そして、自分も落ち着いてきたし、ひまわり食堂がやっぱり楽しかったんで「また行かせてください」って言って復帰しました。2022年度からスタッフとして代表に引きずり込んでいただきました。笑

深川さん

saculaのホームページを見て、なんか優しいなとか、なんか関わってみたいと思われたんですね。

最初関わった時の第1印象とか、場の印象でもスタッフの印象でも、どういう感想とか持たれました？

うっしー

場の印象としては、スタッフが子どもたちに何かしてあげようっていう関係じゃなくて、フラットっていうか、平等。その中で純粋に楽しんでいる感じがして、その感じがあったから、僕もすごい1回目から入りやすかったですね。子どもたちと全力で楽しむことが、saculaでの関わりに貢献できるっていうのが分かってきて。そこは自分としても合っていると思ったんですよ。自分も楽しむの好きですし、自分が子どもたちを楽しませることも好きなんで。

深川さん

そのフラットさにはありますよね。何か子どもに教えるとかでもないところが僕もいいと思います。

さつきさんはどうですか？

さつきちゃん

ひまわり食堂とかの雰囲気は、子どもたちにこちらがやりたいことを押し付けることもないなって。私も初め関わった時は、どうやって子どもたちと関わったらいいのか悩んでたんですけど、うっしーさんとかひーちゃんとか他のスタッフがどうやって子どもたちに関わってるかなって見ている中で、段々こういう風にすればいいのかと分かってきました。

なんかしてあげようとか、こうしてあげなとかそういうこと考えるんじゃなくて、ただ子どもが居心地がいい場所をつくるお手伝いができたらいいのかなって分かってきました。



子どもと一緒に茶の準備♪



うっしーの周りには自然と子どもたちが集まります😊

深川さん

自然と子どもたちが心地よくいられる場をつくるためにおこなっていることとか、ひまわり食堂での自分の役割ってどう思っていますか？

うっしー

自分の役割は率先して楽しむ役です。

子どもと関わる時は、大人がまず全力で楽しんで過ぐす。それを見た子どもたちが、自分たちも楽しんでいいんだって安心して思えるようにしたいです。最初緊張したりもするじゃないですか、初めて来た子とか。これ楽しんでいいのかなとか、どうしたらいいんやろうってなった時に、大人がそこで1歩引いたら、子どもも1歩引いてって、もう引き合いになっちゃうので、参加してる大人がもう全力で率先して楽しんで、場の緊張をほぐしたいと自分は思っています。

さつきちゃん

私はやっぱり時々1人になる子とかがいた時に、一緒に過ぐすのが役割だと思っています。自分も子どもの時、ただ1人にいるより、誰かがいてくれて、自分のこと見てくれてるなって思うだけで、安心したり楽しかったりしたので。あと子どもたちも自分のことを一生懸命に話してくれたりするので、それがすごく嬉しいですね。そういう関わりができる役割になれたらいいなって思っています。

うっしー

今話してて改めていい連携だなぁって思いました。僕がメインで子どもたちの遊ぶ場を見て、みんなで遊ぶのが疲れたりとか1人になりたい子がいたらさつきちゃんが関わってくれて、すごいいい連携取れてるなって。

深川さん

さつきさんから見てうっしーさんの役割とかいいところとか、子どもたちへの関わりも含めてどう捉えていますか？

さつきちゃん

うっしーさんは全力で楽しんでるなって思いつつながら見てるんですけど、活動終わった後の振り返りでは、ちゃんと子どものことを冷静に「ここがこうやったから、次はこうした方がいい」とか、「この子、今日調子ちょっと悪そうやった」とか色んな細かいところまで見てはって、全体をすごい把握して子どもたちに関わってはるなって思っています。

深川さん

ただ子どもたちと楽しく遊んでるだけじゃないんだぞ！っていうね。

うっしー

自分の意識としては、ただ遊んでるだけなんですけども。笑

でも最近確かに遊ぶだけでなく、学生さんとかインターン生とかも中に入ってくれるようになったので、自分が担ってたところを役割分担できるようになって、全体を見たりとは確かに意識していたんで、そこはなんか見てもらえてたのが嬉しいですね。

深川さん

温まる言葉をいただいたうっしーさんからさつきさんへはどうでしょう。

うっしー

さつきちゃんは、集団を見るというより、ちょっと離れて1人で静かに絵描きしたい子とか、折り紙したい子とかをすぐ見つけてすぐ行ってくれる。それこそ隣にいてくれるだけでも、その子にとってはすごい嬉しいと思う。僕は子どもたちと遊んでいると夢中になって見れなくなるので、すごいいいアンテナを持っていると思いますね。

深川さん

ムードメーカーのうっしーさんと、細かく1人の子をサポートするさつきさん。そしてチームリーダーのひーちゃんを中心になって、その場で一緒にやっているこの体制になってちょうど1年ですか。

ひまわり食堂この1年どうだったかと、こんなこと感じたとか、もっとこうしていきたいとか、来年度はここ頑張りたいなっていうのがあったら教えてください。

うっしー

すごいシンプルな感想だけど「楽しかった」のが第一に来るんですよ。やっぱり自分がボードゲーム好きなんで、自分を活かせる場であったり、ひまわり食堂が自分の居場所にもなっているんで、個人としてもすごい楽しかったです。それが子どもたちにとってもの楽しみにも繋がっていらいいなって思います。

さつきちゃん

この1年、子どもと関わることも含めて、本当に初めてのことがばっかりでした。子どもたちはみんなすごい元気やから、私もそれに負けないように、一緒に元気に遊んで楽しんで、その中で子どもたちも楽しいって思ってもらえたらいいなと思っています。

あと、子どもって大人が考えているより、もっとずっと色んなこと考えてるなって思いました。大人の話をよく聞いているなって思うし、小学校高学年とかになると、ちょっとこちらを気遣うこともしてくれたり。気遣って大人になるうちに覚えていくこととは思いますが、子どものうちは、特にsacculaやひまわり食堂では、やっぱり子ども自身が楽しいって思うことを優先してしてほしいなと思っています。どうしても気遣うことがばっかり覚えちゃうと、自分のやりたいこととか、好きなことが分からなくなっちゃう子もいると思うので、それを忘れないように子どもたちと接することは心がけたいなと思っています。

うっしー

子どもは子どもらしくいてほしいよね。

さつきちゃん

そうですね。

深川さん

うっしーさん、さつきさん、ありがとうございます。



子どもに寄り添うさつきちゃん



ボードゲームは盛り上がる！

深川さん

どうですか？ひーちゃん。2人と一緒にこの1年間ひまわり食堂をやってきました。

ひーちゃん

すごい楽になった。別に、今まで苦しかったとかじゃないんですけど、これまではその時その時によって来てくれるボランティアさんにもばらつきがあり、そんな状況だから「自分が軸になってみんなを回さなきゃ」みたいな、私自身もちょっと気負いがあったんですけど、うっしーとさつきちゃんっていうほぼ毎回してくれるスタッフがいて、私が全体を見てリーダーシップを取る立場にいて、他のスタッフとか今回来てくれたら調理をお手伝いできるなとか、その場の想定がすごくしやすくなった。やっぱりスタッフがいることで、ボランティアさんの参加がまばらでもなんとなく場のイメージができるし、場の見通しが立つので、前日の自分の安心感が全然違ってきます。

深川さん

「場の想定」っていう言葉がなるほどと思いました。あとはどうですか？お2人の関わりに対する感想でもいいですし、今年度のこともいいですし。



子どもと一緒に土産をつみつみ

ひーちゃん

うっしーは子どもと関わる経験とかボードゲームっていう得意分野を持ってくれているし、いてくれたら、それだけでもう本当に安心できる。さつきちゃんは、全体見て自分が行かないといけないポジションにずっと入ってくれるっていう立場に、回を重ねるごとにどんどん実践してくれるようになっていて、さつきちゃん自身も自信がついてきた部分もあるかなと思う。スタッフとしての役割をどんどんやってくれるようになって、私自身が安心してできるようになったかな。

私は立場的に全体を見なきゃいけないから、あんまり子どもと細かく関わったり、1人1人の子と遊ぶ余裕はないって思ってたんですけど、うっしーとさつきちゃんがいてくれて、私も心の余裕ができてきた。私も手が空いた時に一緒に遊ぶとか、お絵描きに割り込んでいくとか、「子どもと関わる」っていうことが、周りを見ながらできるようになって、私自身こ

の場を楽しむ余裕も出てきた。コロナとかの状況によっては、子どもたちも固定したメンバーになってきていて、その子たちにとっての居場所作りとしては意味のある活動ができていくけど、もっと色んなことを求めている人や子ども、家庭がいて、私たちが手を伸ばせば伸ばすほど色んなニーズが出てくると思うので、これからもっと色んな子やもっとニーズのある子に出会うってなった時に、もっとみんなが活躍できるように、そこは今は考えていきたいかなっていうところではあります。ちょっとと長くなりました。笑

深川さん

sacula全体で見ると、代表は場づくりの方をひーちゃんに任せて、多分体制や立場のことも代表から言われて、入れ替わり立ち替わりが多かったところにスツとお2人が入ってきて、それぞれの役割を埋めていただけている安心感がありますね。逆にお2人からひーちゃんに、この役割がありがたかったとかありますか？

さつきちゃん

ひまわり食堂に参加したての頃、どうしたらいいのか分からない状態だった時に、ひーちゃんが「こういう時はこの子、見てくれる？」とか、「もし1人の子がいたら・・・」とか、どう動いたらいいか具体的にアドバイスしてくれはって、こういう風に自分は子どもたちと関わっていったらいいのかと教わって、アドバイスをもらってひまわり食堂のことを分かっていったので、やっぱりひーちゃんがいてくれるっていう安心感は半端ないです。

うっしー

僕は基本、結構好き勝手やってるんですけど、ひまわり食堂ではそれが助かってるって言うてもらえてるところもあります。でも僕として助かっているのは、活動が始まる前とかに「この時間はこうしてほしい」とか、活動の最中にも「ちょっと、ここはお願い」とか、的確に指示とか出してくれるんで、そういう時に「今はこれをしたらいいんや」って自分の動きが分かりやすいし、すごい助かっています。ほっといたら僕、多分ずっと遊んでるんで、そこでお願いしてもらえるのはすごいありがたいです。

深川さん

それはありますよね。私もそうですし、学生も指示してもらえるとわかりやすい。

ひーちゃん

ひまわり食堂という場で、自分の役割って何なんだろうって考えた時に、中心となって進行するのはもちろんなんですけど、スタッフやボランティアさん含めて、この人はこれが得意だからこれをやってもらおうっていうのを、自分が理解することかなと思っています。初めて来てくれた人は、子どもはもちろんスタッフやボランティアさん、フィールドワークの学生さんも、1人1人のことを理解したうえで、その場の状況で今この人はこれをしてもらえるかなとか、場のことを考えられる。それが「場をコーディネートする」ことで、それが私に求められてる役割なんだろうなと思っています。

ひまわり食堂は、ごみ拾いなど明確なボランティアと違って、ボランティアさんが明確にこれをやらなきゃいけないってことがないので、特に初めて来た子どもと関わることに慣れていない学生さんとかは多分何していいか分からない状況になると思う。「とりあえず子どもたちと遊んでください」「ただここで子どもと関わってください」って言われるのは、きっと「何もし

なくていいよ」って言われる辛さに似たものがあるだろうなって思っている。なので、そういうのはやっぱり見て、1人1人の特性も、その場の状況とかも見るようにしています。

最近では「きっと今はここでこう繋いだらうまくボランティアさんや学生さんの学びにもなるんじゃないか」とか、そういうのをうまくできるようになると私も成長できるかなっていうのは感じたり。そういったコーディネートを助かるって皆さんに言ってもらえて、そのニーズと合ってたんやなと安心しました。



さつきちゃんのご飯も作ってくれた



ご寄付いただいたスイカをわけわけ

ひーちゃん

コロナ禍以降、子どもがほぼ固定で10人前後の子が毎回来てくれて、大体子どもたちも私たちのこともよく知ってるっていう関係性の中でやっているの、やっぱり回を重ねるごとに関係も深まっていった。でも本来は、ふらっと来てくれる子がいたりとか、お友達を連れてくる子がいたりとか、色んなことが想定されると思う。まだしばらくは予約参加制にすると思うけど、その日誰が来るかがイメージできていない、子どもがたくさん来るかもしれない、2,3人しか来ないかもしれないという、色んな子がふらっと来れる雰囲気場になっていくことが、本来の子ども食堂の意味とか考えた時に、きっと望ましいと思っていて。もしそうなった時にはどうありたいとか、不安な点とか、今と違う雰囲気にしていく可能性があるのかっていうのは私としてはこれからもうちょっと話し合ってもいいのかなって思う。

具体的な話で言うと、今来ている子ども同士がすごく仲がいいし、関係性とか、スタッフとの信頼関係もできています。

そこで初めて1人で来まして子がいたら、さつきちゃんとか、個別対応をこれまで経験してきたスタッフはその子について、うっしーは全体見つつかとか、そんなふうにとできるとは思うけど、そういう「今の状況」だけじゃなくて「これからのこと」を私だけじゃなくてそれぞれもちょっと考えてみてほしいなっていうのはある。別に今がうまくいってないとかじゃないけど、このままでいいのかなっていうのは思っていて、居場所ってどうあるべきなんかなっていう思いがずっとある。

うっしー

心配事とか不安なところと言えば、新しく来た子が、もうすでに出来上がってる輪を見て阻害感を感じたり、「ここはちょっと自分行けないな」ってなってフェードアウトしてしまわないかが心配。コロナ禍も何人か新しい子が来てくれていたけど、次来なかったりとかもあったから「なんかあったかな」っていうのは、ちょっと思ったり。子どもたちの輪の中でもやっぱ顔馴染みができちゃって、もうちょっと輪の中にうまく入れるようにつなげられたらよかったかなとかは思ったりしたかな。

ひーちゃん

でもそれは初めて来たから、そりゃ、その溶け込めないのは当然だね。

今いるメンバーはたまたま人懐っこいメンバーの集まりだけど、1人でも別に平気な子、プラスワイワイできる子たちが多くて、初めて来た子がそこに溶け込ませればいいのかっていうと、そうでもない。

例えばひまわり食堂での11時〜14時の3時間の中で、徐々に溶け込めばいいわっていう考え方もあるけど、別に溶け込みたいと思ってる子じゃないかもしれないしとか、居場所作りの性質でもあるのかもしれないけど、こんなにワイワイしたいわけじゃないのに、みたいな子が来た時に、だからって静かな活動にするわけにもいかんしみたいな。

そうやって色んな子が来るとかっていうことを、どっちかっていうと、あんまりうまくいかない想定でいたいなっていうのはある。うっしーもさつきちゃんも他のスタッフも1人1人の子を見ることができる人たちなので、その子の思いを無視して無理やり仲間に入れようとかはしないと思う。でも今言ってくれたみたいな視点って大事になって思うし、そういう風になりたいとも思いますね。

うっしー

新しく来た子にとってのその子らしい場所になればいいなと思うかな。

さつきちゃん

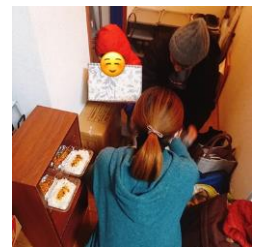
【のんびりスペース スイートピー】にも色んな子が来ているんですけど、その子たちもみんな仲良くみたいな積極的に仲良くなって感じじゃないけど、違うことをしているけど同じ空間にいる、みたいな感じができていったら、別にいいのかなと思う。でも難しいなって思いますね。

ひーちゃん

クローバーとかでも面白いなと思ったのが、ある時男の子たちが4,5人来てくれていたんですけど、みんなこたつに足突っ込んで、みんな違うことしてたの。居場所ってこれでいいんやろうなっていうのがあって、だからイベントでみんなでこれやりましょうとかもいいけど、

みんなと遊びたいタイプの子もいるけど、やっぱりそれぞれが好きなのをする時間って、あえてつくるのって、いいよね。必要。その中でこの子はこういう子って見えてくるところもある。

これからのことなので全然想定はできないけど、初めての子が来てくれて、その子が何かしらで「楽しかった」って思ってもらえて、また来たいって思える場になれば、いいかなって思いますよね。



みにひまの一場面



ビンゴ大会の進行中

saculaのスタッフは、以下の4つのチームに分かれて日々活動をしています ▲

🌸 **居場所チーム**：主に子ども・若者の居場所活動のコーディネートや子どもとの関わりはもちろん、活動で食べるご飯の調理補助等もしています。

○担当活動

【西京区】ひまわり食堂・みにひまわり食堂・学習スペースすみれ・
フリースペースクローバー・レスパイトケアポピー

【下京区】秘密基地すずらん・のんびりスペーススイートピー・若者のご

飯会ミモザ

若年女性のお泊り会あさがお・対人援助者交流会オリーブ

🌸 **広報チーム**：主にチラシ・寄付者宛てニュースレターの作成、事務作業全般、地域や関係機関とのつながりづくり、SNSでの情報発信をしています。

🌸 **相談チーム**：主にLINE・電話相談やアウトリーチ、サクラソウ入居者の関わり等を行っています。関係機関への同行や、ケースカンファレンスもしています。

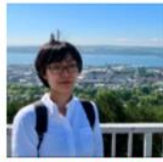
🌸 **カフェチーム**：下京区にあるすずなりランタンにてお食事の提供や接客をしています。

カフェでのイベント企画・運営も担当しています。

【2022年度活動報告会 第二部対談】

2023年3月、オンラインにて2022年度法人活動報告会を開催いたしました。

第一部は各活動の様子について報告し、第二部ではsaculaの理事たちと、『若者』をテーマにざっくばらんと対談しました。ぜひご覧ください♪



大谷大学社会学部
コミュニティデザイン学科
岡部 茜氏

生活の困難さを経験している若者が生きやすくなる仕組みづくりについて研究している。今注目しているのは若者の住まいについて。海産物が好き。



京都市ユースサービス協会
チーフユースワーカー
竹田 明子氏

中学生から30歳までの若者たちと関わりながら、ともに活動をし、場づくりや相談支援に臨んでいる。梅干しが好き。



sacula代表理事
木村 友香理

sacula代表を務めながらソーシャルワーカーとして相談機関や教育機関で勤務している。イラストロジックに没頭するのが好き。

木村

では、順番に自己紹介をしていただきたいと思います。

竹田

saculaの理事であり、普段は京都市ユースサービス協会の職員として働いています。saculaとの出会いは、法人化の前、木村さんが団体を立ち上げたいと言った時から、思いを聴かせていただけてお手伝いさせてもらって、みたいな感じです。

岡部

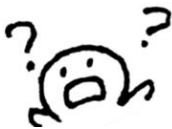
saculaの理事をしています。普段は大谷大学で社会福祉の学生を教えています。saculaとの出会いは、若者への居住支援を調査していて、京都でもあるっていうことでお話を聞いて。NPO法人になります、って時に理事にお誘いいただいて、参加させていただいています。

この後の話にも入ると思うんですけど、saculaは必要に応じていっぱい、色んな活動ができていて、それがすごい魅力だなと思っています。はい、人前で喋るのが苦手です。よろしくお願いします。

木村

ありがとうございます。saculaの代表理事してます、木村です。よろしくお願いします。私はもうこれだけでいいや。

さて、本題へ。2022年度に【秘密基地すずらん食事宿泊報告書】という冊子を作ったんですけど、この冊子の中の一番最初に書かせてもらってるんですけど、saculaが会った高校生が私にあることを言ってくれました。



学校の先生に家のことを相談したら、カウンセリングルームに連れていかれて、話したこともないおばちゃんに「なんでも話していいよ」と言われたことがあった。先生だから話したのに、なんで知りもしないおばちゃんに言わなあかんねんって思った。

っていうことを言われたことがありました。

若者からそういう声が上がったんですけど、結構これって、子どもであったり大人であったり、誰でも実は言えることかなと思って。関係性ができている人に言ったのに、なんかこう全然違う方向に行ってしまった、みたいなものってあるあるかなって。昨日もここにきてくれた若者に、この文章見せて、どう思う？って聞いたら「自分のことかと思った。自分も高校生の時そういうことあった。」って言われて、あ、もしかしたら色んな人が、関係ができている人に相談したのに、関係性のできてもいない専門家につないで、すごい困った。みたいなものがあるのかなと思ったんですけど。竹田さん、そういう子って出会ったりしますか。

竹田

こういうことを言ってくれる人に出会ったことはそんなにないかな。関係性が出来てきてから相談されるね。そんな初対面で相談しいひんよな、っていうのはめちゃくちゃ分かる、共感できる。自分も、あ、竹田さんのやってることこの人にいいかもしれないから出会わせてあげるよ、って出会わされたとして、お互いの素性もわからんまま喋るなんてあまりしないよなってことを考えれば、当たり前だよな、って思う事例だなんて思った。思ったけど、これ大人がやりがちかもなあっていうのも一方で思ったんですよね。

岡部

そうですね。この、カウンセリングルームに連れて行かれてっていうところが、学校の先生たちももしかしたら「支援に繋がなければいけない」みたいなプレッシャーがあるのかも。学校にはスクールカウンセラーもいるし、スクールソーシャルワーカーもいるし、何か困ったことがあったら、自分が全部受け止めるんじゃないで、繋げなきゃ、解決しなきゃ、みたいなプレッシャーがあるのかな、なんてこともちょっと読みながら感じました。

木村

私もこの話を若者から聴いて、担任の先生も専門家に繋がなきゃって思ったのかなと思いました。私が本人から直接聴いた家庭の話も、結構センシティブなところがあったので、担任はひょっと「自分には何もできないからせめて専門家に繋ごう」とカウンセリングルームに連れて行ったのかなとは思う。思えたんですけど、まあ本人からしたら、なんでやねんってなってしまふやろうなっていうのも思っ。この先生だから話したのってっていうのが、一番キポイントかなと。

竹田

「この先生だから話したのに」は、誰に言えたんだろうね。先生には言えなかったのかな。

木村

この話をしてくれた子は、先生に結構深いところまで話したのに、っていうショックと諦めみたいなものはありましたね。

テレビのCMとかでも、「困ったら誰かに相談しよう」みたいなのがずっと流れていたじゃないですか。多分新型コロナウイルス感染拡大が始まってすぐ結構そういうCMいっぱい流れていたのかな。あの時に若者たちが、誰かに相談しようっていうけど誰でもいいわけじゃないんだってすごい言ってたんです。

岡部

孤立孤独対策とか、内閣官房でやっているやつがあるから。

木村

ありましたね～。そうですね、孤立孤独にフォーカスを当ててっていうの。

竹田

逆にsaculaに繋がった後に、saculaの色々な活動の中で、ぼろっと出される相談とかもあるんです。

木村

saculaは関係機関で聞いてもらえなかったからうちに来たっていうケースと、関係機関から、あっちの方がよく話聞いてくれるよって回ってきたりとかもありますね。ダイレクトにsaculaに相談したくて来るってことは実はそんなに多くはなくて。関係機関からの紹介か、若者のご飯会ミモザとかに来てくれて、そこから相談で一緒に動いてくってというケースの方が、多いですね。あんまり「saculaは相談サポートやってます！」って出してないの。

竹田

『コミュニティスペース』だもんね。

木村

そうですね。居場所があって、そこで関係性ができて、初めて専門性、saculaは代表と副代表がソーシャルワーカーなので、関係性ができてから初めてその専門性が活かされるって思っているの。

ミモザも、スタッフの私たちでさえフルネームも知らない子が来る時もあるので、フルネームや言いたくないことは別に言わなくていいよって場にしているので、そこで、私たちに何でも言っていからねとかって最初からグイグイは絶対いかず、話したいことを聴くよっていう感じでやってます、意識は。

竹田

私が普段いる青少年活動センターは、フリースペースとしてのロビーとかに集う若者たちはやっぱり雑談がベースなんだよね。関わりの中でぼろっと相談が生まれてくる「関わり相談」と名付けているんだけど、その状況とすごく似てるなって。

関わり相談の中でも、仮説だけど2つくらい機能がありそう。

1つは、喋ることで自分が整理されたり、聴いてほしい、分かってほしい。先生にわかってほしかったから、知ってほしかったから喋れたわけじゃない。そういう今の自分の状況を、なんとなく伝えられる相手がいる安心感とか、言葉にすることで少し落ち着くみたいなのところがありそうだなって。

もう1つは、これはちょっとまずいんじゃないか、すぐに支援が必要かもしれない、みたいなことの察知。そういう時に踏み込んで良いかいけないか、分かりにくい時があるんですね。本人から相談がありますとか助けてくださいって言われたら、分かるけど。もう少し深く聴こうか、突っ込んでいこうか、今対応せなあかん、支援せなあかんみたいなのところの、ちゃんと繋がっていくための入り口としての機能が関わり相談にはあると思っています。

saculaは代表と副代表がソーシャルワーカーって言っていたように、支援文脈っていうのをちゃんと分かりながらやってるから、そこもうまいことキャッチするんやなって思いながら見ているのと、地域の中でこういう場づくりがどんどん広がっていく中で、そこまで求められるとしんどいって思っている地域のコミュニティも結構あるし、この先生みたいに「あ、繋がなきゃ」みたいなのが先走っちゃうことも起きてるよなーなんてことを、お話を聴きながら自分の現場とあわせて考えていました。

岡部

話していたことと全然違うことを話すんですけど、『「心の専門家」はいらない』っていう新書があるんですよ。ちょっと前に出た本で。すごい面白い、ある種すごく根源的な話で。トラウマのケアとか、震災後とか虐待の後とか、色々「子どものトラウマのケアを心理職に」って言うんだけど、子どもはカウンセリングじゃなくて、周りの大人に話を聴いてもらって安心したいんじゃないの？みたいな。すごく時間はかかるかもしれないけど、色々時間をかけて周りが支えていくっていうことが、子どもは求めているんじゃないの？みたいな本だと、私は読んだんですね。

精神保健福祉センターとかで相談員とかしていた時、すごい深刻だと思っていうケースがあって、「私では…」みたいな感じになって、やっぱり心理職の人にながたくなるんですよ。もちろん専門家が不要だって言うことは、もしかしたら乱暴的すぎるのかもしれないけど、コミュニティの中で時間をかけて大切にされる、みたいなことが、相談などにおいては重要なのかなって。今日初めて思いついて言ってみた。

学校の先生に相談していて、カウンセラーの人が専門職でいるから、何でも話したらいいよってというのは、生活空間の中にいる学校の先生という大人に喋っていたけど、いきなりシュッと別の空間に投げ込まれたみたいな感じに、もしかしたら子どもは捉えるのかもしれない。それってすごく暴力的だよね。

竹田

コミュニティの中で大事にされる経験は大切だと思う。そういうところsaculaの活動の中で意識してることありますか？

木村

一番意識してるのは、支援ありきのコミュニティにはならないように。あくまでそこは必要に応じて。この先に支援があるっていうのを前提にすると、たちまち来れなくなる子とかがいるの。

【スイートピー】の参加者の中には「不登校の子の居場所」には行きたくないっていう子がいて。保護者の方が、カフェでなんかやるらしいからご飯食べに行こうって誘ってくださって、カフェで実はゲームしたり本読んだり出来るらしいじゃんっていう形でつながったんですけど。不登校の子の居場所っていうのは私たちは表向きには言ってなくて、あくまで「平日日中のこの時間に来れる人が参加対象」ってしています。専門家に話せる場所があるよとか、支援してくれる居場所があるよって言うよりも、なんかここでご飯食べれるらしいよ、ついでに遊べるらしいよっていう、そっちを意識してもらえ場所にするっていうのは心がけています。

竹田さん、あります？コミュニティ作りで意識していること。



相談の様子を横からパチリ

竹田

ユースワーカー的に言うと、支援は目的じゃないので、そこはやっぱり考えていないんですよ。コミュニティの中で大事にされる経験が大事だし、支援ありきでコミュニティを見たくないって大事なんだけど、そのコミュニティを作るのが大変だよ。まずそのコミュニティに参加できるとか、帰属意識を持てるかってところが、やっぱり相性もあるし、繋がり方もあるし。だからなるべく外のコミュニティに参加する場合は一緒に行くことを意識しています。「相談に行ったらいいよ」「こういう所あるよ」みたいなのをめちゃくちゃ丁寧に説明してもなかなか一人では行かないから、一緒に行かないと。

木村

【ミモザ】に繋がった若者たち、よく来たなって思っちゃう。その子にとっては、私以外の人は全員知らない場なので、ほぼほぼ。私以外の人知らないけど、人見知りの子もやっぱり来るので。それはコミュニティを求めているのか何なのか、色んな理由はきっとあるんでしょうけど。そういう意味では仕方なく来ているとか、来ざるを得なくて来てるみたいな子を、出会う人がちゃんと認識してないといけません。

竹田

そういう出会いもあるにはあるからね。学習支援とかやっていると入り口が結構ある。最初は行かされる感で、行きたいとも行きたくないとも別に何も無いけど、とりあえず行けて〇〇さんに言われてから行ってみた、みたいな。そういう出会いは確かにある。

岡部

それってその〇〇さんが、Aさんが言うんやったら行ってやってもいいけど、Bさんに言われるんやったら行ってやらない、みたいなこともあるんですね。

竹田

それこそ相談員さんから言われて、この人が言ったから行くっていうのもありましたね。行っておいでと言った人との関係性はやっぱり大きいかもですね。どこにおいても関係性って大事だなと思っちゃいますね。振り出しに戻っちゃうけど、最初に話題提供として挙げてくれた子は、先生に言われて行かざるを得なかったんだね、きつこの子はね。この関係性においては。「え、いいし」って言わなかったんだよね。先生に対してね。

木村

そうかもですね。先生のことある程度信頼しているか、それが先生からの権力性によってなのかは分からないけど、一応カウンセリングルームには行っているわけじゃないですか。カウンセラーさんが何でも話していいよって言ったけど、「なんでお前に話さなアカンねん」「先生に言うたやん、なんでお前やねん」って言うのが強かったと言っていましたね。そこで先生がキャッチした上で「こういう人がいるんだけど、そっちで話してみない？」だったらまた変わったと思うんですけど、「よしじゃあ、そういうの聞いてくれるカウンセラーさんのところに行こう」みたいな感じのノリで、ぐいっと連れていかれたみたいで。

竹田

それは苦しいな。

木村

そこに同意をちゃんと求めてくれるかどうかも大事だったかなと思いますね。こっちが良かれと思ってやるのが、同意がきちんと得られるかどうか大きいな。良かれと思って動く支援者もまあまあいるなと思って。

竹田

同意はでも難しいね。

木村

難しいですね。だからしゃなし感とか、先生とも話せるし、なんか先生が信頼するし、こっちでももしかしたらみたいな感じで、ちょっとの期待みたいな。同意はありそうな気がするけど、完全な同意って難しい。

竹田

その根本解決が必要だっていう。主訴を持ったと思うけど、生徒からしたら先生にとりあえずキャッチしてもらいたただけで留まっていたりとかする。そうすると目指す方向ベクトルがそもそも変わってしまうとかは結構あるんだろうなと思いますね。

岡部

でも「この人になら話していいかな」という関係性と信頼感を獲得するって、すごく難しくないですか？

竹田

難しい難しい。これが100%の正解ももちろんないですし、自分、それこそ良かれと思ってやってたことが裏目に出るとか、全然違ったとかもあると思いますし。

木村

それこそ打ち合わせの時に出てた話題なんですけど、パパ活している女の子から「ゆかりさんはお金くれないし、抱きしめてくれない」って言われて、結局パパの方に行っちゃったっていう子がいました。そういう時は、確かにsaculaはお金あげられない。抱きしめてあげられない。そこじゃないところで彼女の状況が良くなればと思ってやっていたけど、それこそ主訴が違って、温もりもお金もくれる人のところに行くっていう結論に至ったりとかすると、支援の限界がここにあったなっていうので、私全然後悔しない性格なのに、いまだに引きずって。

岡部

そういう限界とかありますよね。関わる中でのモヤモヤってあります？

竹田

さっきの信頼とか関係性のところって分からないじゃん。こちらは信頼したいとか、信じて何か関わりたいなって思うけど、相手がどう思っているかなんて分からない中でコミュニケーションとっていくわけじゃないですか。だから自信を持ってやるっていうことはなかなかないよね。常にモヤリながら。楽しい時とかは純粋にバカ笑ったりとか遊んだりとかあるけど、それも刹那だと思うんですよ。積み上げられていく関係性はあるけど、楽しいとか信頼できるとか刹那的なのはすごい大事だと思っていて。だから自信を持ってやるとか、モヤらないでやるってことは、あんまりない気がする。というのと年齢がだんだん上がっていけば上がっていくほど後輩ワーカーとかが増えてくるじゃないですか。現場は若手と若者たちが楽しくやっていて、そこで関係性ができているなっていうのは、傍から見てると分かるというか。「このコミュニケーションは私とはしないよな」みたいなのが第三者的には分かるけど、自分についてはあんまり、後から振り返って分かることはあるけど、その瞬間はなかなか自信はないかもね。

岡部

そもそも関係性って絶対築けないといけないと思います？

竹田

なるほど。良い質問するね。その問いの心をもう少し。

岡部

つまり、この学校の先生からカウンセリングルームに来て何でも話していいよって言われてちょっともやっとしたっていう話は、【話すに足る大人とか空間はどうやって作られるのか】【自分たちは若者にとって話すに足る大人なのか】っていう話だと思うんですね。その関係性の話が前提的に議論があると思うんですけど、人と人との関係って結構偶然によるじゃないですか。同じK-POPアイドルが好きとかだめちゃうちゃ急速に接近するし、でも合う合わないとかもちろんあるし、こっちが意図的にすごく傾聴的な態度で親しみを持って接するみたいなどころでは、完全にはコントロールできない部分もある感じがして、完全に技術で関係性を作れるって認識することの方が危ないかなって思った時に、関係性はもちろん重要なんだけど、関係性って絶対作れないあかんのかな、みたいな。

竹田

今思ったのが、関係性の中に込められている言葉の意味としては、【話すに足る大人としての関係性】っていう意味だね。その距離感とか人間同士の距離感は色んな関係性が生じていて、この人には話しにくい関係性があると思った時に、前提として話すに足る大人としての関係性が築かれる必要があるかっていうと、すごいシンプルだけど役割分担かなって思ってる。

木村

シェアハウスの「サクラソウ」では、ワーカー1人と、彼女たちの同年代のスタッフ「ピアスタッフ」1人をつけて、2人体制で担当するっていう形にしている。「ワーカーです」って最初から関わるのと、「同世代です」って関わるのと、話す内容が全然変わってきて。私たちワーカーにはお金のことやこれからの生活のこと、仕事のこと。ピアスタッフには、恋愛相談とか人間関係の相談とか、日常的な話をすることが多くて。でも、そういう恋愛関係、人間関係の話から、実はその結構大きいポイントが、生活相談とか就職につながる。何かの引っかかりが実はピアへの話の中に埋め込まれている。でも、きっと関係性的に私たちに言うこととピアたちに言うことを若者たちは意図的に分けているから、私たちでは作りきれない関係性をピアたちに担ってもらっているのを、意図的にこちらにも出したりとかしている。関係性があれば全てをもちろん喋れるわけでもないで、関係性の中でも相手や内容を選ぶようにしたりとかしている、やっぱり関係性と一言で言ってもその中でも色んな関係性の種類があるんだっていうのはやってて思いました。とりあえず関係性さえあればいいっていうのは確かに違うなと今改めて感じました。というところでは、私たちも役割分担って大事だったなっていう風に。

竹田

役割分担、今「選択」って言ってたけど、あんまりこっちが意図的に役割分担を仕切らない方がいいのかもしれないと思ってる。もう緊急的に動かなきゃいけないって時は、ある程度こちらで役割分担をして臨むし、それが大事だと思うけど、日常のこの場作りの中ではまだその関係構築がまだこれからってタイミングの時には、選んでもらえる方がいい気がする。

岡部

「この人しかいない」っていうよりはね。その子自身が選べるって大事ですよ。カウンセリングとか相談の関係って一対一じゃないですか。だから合わなかったら次の人、合わなかったら次の人で、それも選べるって言えば選べるんだけど、話聴く側としてもめっちゃうちゃプレッシャーじゃないですか。そういう意味ではコミュニティだと思っただけです。あんまりこの子にとっては、自分はそのなかに主要な役割を果たせないだろうなと思っても、場を運営することはできるし、ごちゃごちゃした空間の一部になることはできるじゃないですか。それが結構重要な気がしていて、ごちゃごちゃしていて、あんまり女の子とか男の子、若者にとって価値がない。あんまり相談しやすいわけじゃない。大人だとしても背景にいっぱいいる分には結構安心感があるかもなあって思ったりして。そういう空間としてハード面でもそうだけど、ソフト面でもコミュニティって結構重要だなと思った。

木村

空間、本当に大事ですよ。対話するのは確かに人と人だけど、空間も本当にどこでもいい、誰でもいいじゃないかっていうのは本当に感じますね。

竹田

せっかくなら話を聞いてほしいのもあるけど、誰でもいいっていうよりは「この人に」っていうのはありますよね。でも、プロフェッショナルだと関係性をつくらなければならないこともあるのでは。ユースのロビー活動であれば、嫌なら関わらなくてもOKとしていて。なるほど、、、、じゃあ、スクールカウンセラーって難しいですよ。

木村

スクールソーシャルワーカーとして働いていた時は私、普通に休み時間、子どもと一緒に輪車とかしていました。ソーシャルワーカーってまず分かんないじゃないですか。ソーシャルワーカーって何する人？って、学校現場でもよく言われたんですよ、だからまずは私を知ってもらおうと思って新聞作ったり、子どもたちと遊んだり、授業に入ったりして、そういうことができる環境と関係性だったから良かったんですけど。でも結構相談室にこもっているカウンセラー、ソーシャルワーカーとかもいるって聞くのでプロフェッショナルとしての関わり方も難しいなと思います。

竹田

「なんかすごい人」みたいな感じで関わろうとしてくれる人もいないけど、「誰やこいつ」っていうのが分かったら多分話す内容もまた変わってきたりとかもあるのかなとも思ったけど。

saculaってプロフェッショナルとして関わっている？

木村

ないです。saculaの法人の理念として「専門性より関係性」っていうのをスタッフたちには散々言ってきて、「〇〇してあげる」って言葉が個人的にすごい嫌いで。「〇〇してあげる」って上から目線だと思ってる。それよりは「一緒に何かをする」というスタンスで、スタッフたちやボランティアさんたちにはいてもらいたいっていうのはずっと言い続けています。別にプロフェッショナルじゃなくても一緒に行動するってできるので、プロフェッショナルでいる必要性がないとも思っているんです。必要に応じてソーシャルワーカーを引き出しとして使うぐらい。だからあんまり私も副代表も「ソーシャルワーカーです」って、必要以上に言わない2人なんです。多分、関わっている子ども若者、地域の人とかもあんまりこの2人がソーシャルワーカーって知らないと思うんですよ。知っていてもあんまり意識されていない。私たちはそれでいいと思ってるし、その前の段階がやっぱ大事と思ってるので。



Zoom画面での対談の様子

竹田

ユーザーって専門職にもなっていないし、資格もないし、でもお金はいただいとお仕事してる中で、もしかしたらプロフェッショナルと呼べるのかもしれない。関係作りは仕事の業務の一つと言っていて、どんな関係作りかっていうのはキャラクターによって違うし、安心安全ってところはベースにあるかもしれないけど、関係作りはしないといけないうて言われたら確かにって思う。何のためにってなった時に、やっぱり何かの時にSOSを発しやすいい相手のところにいるためでもあるし、学校とか家とかじゃない地域社会の大人との関係作りを試す相手じゃないけど、SOSのためだけじゃなくて、色んな意味で他者との関係作りを失敗も含めてやってみるところが必要だなんて感じてるから、それはプロフェッショナルとしてやらなきゃいけない業務やなと思っています。「支援臭がない方がいい」と言っています。支援してあげるって、めちゃくちゃ出してくる人って、意外と若者たち嫌うんですよ。意外とじゃない。普通に嫌うんですよ。

岡部

支援臭って定義が難しいですけどね。若者支援の色んな人たちの話を聞いていると、居住支援とか、株式会社とかがやってるマンションで5万取って一部屋に4人〜6人住ませているとかあるんですけど、その情報をSNSで若者たちは知ってますよね。でも生活保護とかも使えるけど、そっちを選んでいるんですよ。知らないわけでは別になくて、嫌な経験してるんですよ。すでに学校の先生とか児童養護施設、児童相談所に一回相談したけど、何言ってるか分からなかったとか。生活保護の窓口も行ったけど、すごい大量の書類が必要でよく分からなかったとか、そういう嫌な経験を一回してももうダメだと思って、「社会福祉」という名前がついてないような、公的っぽくないところのシェアハウスとかに行ったら搾取されるっていうことがあって、難しいなと思う。

竹田

行ったらそこで何してくれるのか。話せればいだけじゃなくて、結局何してくれるのか分からないと困るよねみたいな。支援の具体のメニューがなさすぎるんじゃないか問題もありますよね。そういう時に分かりやすいメニューとしていわゆる貧困ビジネスといわれるようなところに行ってしまう。分かりやすさで行くことってあるんだよね。

岡部

木村さんが言っていた、抱きしめてあげられないし、お金もあげられないっていう話と一緒に、結局お金ってあげてもいいはずなんですよね。社会福祉とかの枠組みでだけ、その制度が今はないから性的な搾取の被害に遭うっていうことが結構横行していて、具体的に話していいよって関係性があっても結構暴力な点はあって、それで何解決してくれるのっていうところは常に問われていて、住める場所を提供できるのかとか、その日をやり過ごすお金をくれるのかっていうと、そうじゃない中で相談って、それはそれで、関係性があっても暴力的だよなって。

竹田

それこそ金をくれって言うてる人に「関係性から始めましょう」なんてそんな悠長なこと言てられなかったりしますもんね。

岡部

そうそう。金を渡すことで関係性作られていくこともあるから、そこにまずはあなたの話を聞かせてくださいって時間を取ってしまうと逆に関係性が崩れますもんね。

木村

あ、Zoomのコメントで、サポステについてどう思いますかってきていますね。どうですか？

竹田

全国に若者サポートステーションがあるけど、京都に関して言うと、色んな役割がサポステに入っているんですよ。いわゆる支援コーディネーターが入っていて、働きたいけど、働けないのはバックグラウンドにある色んな困難さでそれは本人によるものだけではない。色んな困難さがずばりにくっついていて、そこを一つ一つこんがらがったものを解いていくっていうところをやっているんです。色んな機関連携を含めて。というのは今後の若者支援で必要な機能がそこだけじゃなくて、色んなところでそういうことが必要だよなって言われている中で、サポステにも現れているっていうのを感じている。

木村

サポステが多様性を求められているなって感じる時がありますね。そんなこともするんだみたいな。

竹田

サポステってコネクションズっていうイギリスのニート政策から持ってきた経緯としては、多分色んなことができるワンストップの機関だったはずなんですけど、今のサポステの事業的な枠組みとしては、ほとんどやれることはそんなにないから、うまく機能してるかって言うと、そうじゃない。でも努力はしているんじゃないかと思っている。ただ韓国の現場の人と家出支援をしたことあるんですけど、その時にそういう支援を始めて何が良かったですかって聞いたら、家出している若者たちが多様なケアを必要としているってことが可視化されて、それが次に事業につながっていったっていうことが良かったって言うんですよ。やっぱり分かるっていうことは重要だなと思って、サポステがあることで、若者が就労支援だけにはとどまらない、色んな困り事を抱えているってことは分かった気がするんですよ。日本と韓国と違うなって思ったのは、韓国はめちゃくちゃ助成金、企業とかの寄付がすごくたくさんあって、事業を回せるんですよ。だけど日本って別にそんな寄付文化もあるわけではないし、企業とか全然寄付しないし、助成金もあるわけじゃないから、分かったら現場だけがずっともどかしさを抱えて苦しんで終わりっていう。終わらせたくないじゃん。苦しんで、借金して事業を作って潰れるとか、新しく助成金取って3年、助成金終わったら潰れるとかしてると思うんですけど、だから難しいですよ。

現場だけがもがいてる感はあるなと思うし、今日はsaculaの臨場感を伝えたいから、この現場のもやもや感でいいなと思うんだけど、やっぱりそれを企業なのか公的な予算をつけていくのかも含めて伝え方、私たちの発信の仕方も、相手が言葉を持てるように伝えなきゃいけないだろうなとすごく思っている。それが社会的な文脈で何がいいか、私もまだ考え中だけど、現場の声に共感してくれる地域の人たちとか、応援者っていっぱいいるのに、じゃあなんでムーブメントにならないんだろうとか。ローカルさは大事なんだけど、みんながいいねっていうのが、なかなか危うい。ずっと脆弱な状態があるんだろうっていうのは、宿題として考えていかなきゃいけないなと思っているところ。

岡部

色々資源がなくて、だけど資源を作っていくっていうことが、話すに足る人であるっていうことの条件な気がする。関係性の話も、うまく関係性を作らないといけないうとなるとすごく息苦しいけど、結局自分たちは「話すに足る大人」になっているのかとか、空間になっているのかっていうのは常に問われていて、関係性を作る方向にずっと向かっていかないと、作れてるなって思ったりとか、そういうことを考えずにいつでも相談していいよっていうのは、すごく暴力的だっていうのを考えていかないといけないうことだと思うんですよ。では、最後に木村さんに質問しますね。

岡部

saculaのすごいところって、なんか活動がいっぱいできていくってところだと思うんですよ。そんなに素早く必要な活動を作るって難しい気がします。それがみんなできれば、もうちょっと社会は幸せじゃないですか。だからなんで作れてるのかっていうのを話して終わりに向かっていきましょう。

木村

色んな子ども若者に出会って、その一人のきっかけを事業に反映させる。そしたらそのニーズが一人じゃなくて、複数いたっていうのが何度も繰り返されていったっていう形ではあるんですよ。

岡部

なんで事業にしようと思ったんですか。人につなげたらいいってなるじゃないですか。

木村

もちろん上がったニーズでやらなかったものとか、他の団体につなげたこともあるんですけど、せっかくならやってみようっていう一種のノリはあったかもしれないです。お泊まり会も、一人の子が、色んな子と一緒に泊まる機会を作りたいって言って、個人でやるより団体として形にしてやってく？みたいな。深刻な相談とかではなくて、こういうのあったらいいよね、一緒にやってみるっていうのが基本にあります。ベースが一緒にやるっていうところが、私ももちろんsaculaが強くあるのかなと思います。一緒に始めていって、他にも関わりたいっていう子がこんなにいてくれたんだ、じゃあ本格的にやろうか、みたいな感じで形が作られていくっていうところが多いですね。「とりあえずやってみよう」っていう姿勢を見て、子ども若者たちもじゃあ自分たちもやってみよう！ってなってくれることはあったので、そういう「やってみよう」でチャレンジしていいんだっていうのは、後付けですけど、そういう姿勢も見せられるのもあるのかもしれないですよ。



竹田

まず動くのが難しいなと思って。それができないんだよな。

木村

シェアハウスをやってみたいんですっていう相談を、saculaがシェアハウスを始めてから結構いただくんですよ。どうしたらシェアハウスってできますかって聞かれて、物件借りて中を整えて団体としてのルールを決めて、入りたい人ー？って言うんだよって言うんですけど、でも物件を借りるのができませんって。なんでできないの？動いてないだけじゃない？って言っちゃうんですよ。動ける人と動けない人ってなんだろうともたまに思います。私も全部が動けるわけではないので、偉そうなこと言えないんですけど、動かない、動けない、動く動けるとかはあるのかなと思いました。

岡部

辞めようと思ったことないんですか。

木村

代表を辞めたいと思ったことはいっぱいあります。笑
私は組織のトップに立つ人間じゃないわってめっちゃ思います。完全二番手。でも、団体を立ち上げた責任感と、こうやってsaculaに関わってくれている人たちがいるから活動ができていって。感謝し続けるしかないんですけど、saculaのことを見つけてくれる子ども若者とかスタッフとか、saculaのことを応援してくださる方々がいるから、もうちょっと代表頑張ろうって思いで続けています。

竹田

動くなあ、とは思いますがね。でも物件、ここもそうだけど、そんな簡単に見つかる話じゃないよね。

木村

この物件（すずなりランタン）、半年かかりましたね。事務局とかシェアハウスとか一緒に探してくれた、付き合いの長い不動産会社がこれまた一緒にずっと探してくれました。不特定多数の人が出入りする、っていうのが結構ネックでしたね。

何かしたいけど何ができるかわからないっていうのは、すずなりランタンで「ギフトカレー」を始めて本当にたくさんお声を聞くので、そういう人はたくさんいらっしゃるっていうのはすごく感じますね。そこで、うちの活動とかにご寄付であったり、活動に直接関わるで一緒にくださる方々は本当にありがたいなと思います。

岡部

締めは、若者の今とこれからについて。これからこれが必要だ、とかありますか？

木村

「きっかけ」はたくさんできるといいですよ。ご飯でつながれる子もいれば、ご飯ではつながれない子もいるので、勉強でつながるとか、ゲームでつながるとか、saculaでは様々な活動を通してきっかけ作りをしています。チャンネル作りは意図的にやっています。どこかしら何かしらでsaculaとつながって、次のステップにいけたらいいなっていうのは、狙いとしてあったりします。

竹田

チャンネル重要だなと思いました。こういう場と人がやっぱりキーだと思うから、地域に色んな場があるという状態は若者支援というか、若者たちが社会に関わっていく上で必要だなと思っている。

木村

最近、若年女性の居場所って京都にたくさん増えたじゃないですか。ここに来ている女の子で、何曜日と何曜日はあそこに行き、何曜日はあそこに行き何曜日はsaculaに来るっていうように動いている子がいて、すごくいいなって。その子の中でもすでに選択肢がこれだけあって、そこで毎日を楽しく過ごせるって、選べるっていいなって思って。それは京都の良さでもあるし、そういう場作り界隈の良さでもあるなと思います。ちゃんと色が違うから選べるわけじゃないですか。

岡部

女の子が1週間のスケジュールが組まれているってめちゃくちゃいいことで、コロナもあって、若者居住支援もすごく注目されるんですけど、家にいられないっていうのはすごくたくさんあって、家じゃないと暮らせないって、実はすごく窮屈なんですよ。この日はここで寝るとかっていうのがあってもいいはずで、それが若者はもう本当に選択肢が少ない。生活できる場所がいっぱいあるっていうことはすごい重要だなと思います。それが保障された上でその中の誰かに相談しようとか、その中の誰かは信頼できるみたいなのが出てくるのになって思うんですよ。なんかやっぱり寝転がれる場所とか、ただで飯食べれる場所とか、友達とずっとだべってられる場所みたいなのがすごく必要なんだろうなと思います。

広報

2017年11月29日

まちづくりお宝バンク web広報
「ひまわり食堂」 取材・掲載



2017年12月28日

子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会「京都はぐくみ憲章」実践推進者 はぐくみアクション賞受賞



2018年3月30日

京都市「子どもの居場所づくりのすゝめ」取材・掲載



2018年4月1日

京都市ごみ減量推進会議・会報誌「こごみ日和」取材・掲載



2018年12月20日

京都市GOGO土曜塾1・2月号
子育て支援に取り組む地域の皆さんからのエール！ 掲載



2020年5月22日

まちづくりお宝バンク web広報
「自立サポートシェアハウス」取材・掲載



2020年5月27日朝刊

京都新聞「女性の居場所 資金募る」取材・掲載



2023年1月1日

ボランティア活動のための
月刊情報誌 Volunteers京都
取材・掲載



科目			金額	
			2021年度	2022年度
Ⅰ 経常収益	受取会費		162,200	71,000
	受取寄附金		1,798,200	2,903,178
	受取助成金等	休眠預金	－	13,657,697
		子ども食堂補助金	367,209	305,000
	事業収益	子ども・若者の居場所事業	24,900	26,000
		就労体験・職業訓練による就労支援事業	－	1,294,616
		講演事業等	61,220	184,280
	その他		3,501	126,124
経常収益合計			2,478,251	18,567,895
Ⅱ 経常費用	１．事業費	役員報酬	－	942,722
		法定福利費	－	135,463
		支払報酬費	281,900	2,619,981
		旅費交通費	222,362	155,158
		地代家賃	1,697,210	3,254,300
		水道光熱費	189,822	278,625
		新聞図書費	－	40,319
		通信運搬費	11,474	125,399
		保険料	2,850	4,230
		消耗品費	20,082	3,349,665
		食材費	83,660	127,535
		仕入れ	－	713,874
		修繕費	8,705	4,227,869
		雑費	22,058	16,907
		手数料	－	29,237
	事業費合計			
	２．管理費	支払手数料	－	10,000
		印刷製本費	144,419	32,115
		会議費	52,165	38,353
		保険料	20,000	54,613
		消耗品費	93,567	240
		社会保険労務士顧問料	－	109,769
		手数料	3,388	68,585
	管理費合計			
経常費用合計			3,137,468	16,334,959
当期経常増減額				2,232,936
当期正味財産増減額			△659,217	2,232,936
前期繰越正味財産額			0	△659,217
次期繰越正味財産額			△659,217	1,573,719

受取寄附金

新拠点開設に向けたクラウドファンディングや、「ギフトカレー」でのご寄附など、様々な形でより多くの皆さまに支えていただきました。マンスリーサポーターも増加しました。

就労体験・職業訓練による就労支援事業

カフェバー＆レンタルスペース「すずなりランタン」や、マルシェ出店等にて、若者が仕事に携わり、そこで出た収益となります。

講演事業等

代表・副代表による講演・研修・ゲストスピーカーや、代表が他団体へコンサルテーション等をおこなった収益となります。

その他

サクラソウ移転に伴う敷金の返金等になります。

支払報酬費

2022年度はスタッフの増員を行いました。スタッフの希望により、準委任契約（成果物への報酬ではなく、時間に対する報酬）で活動や相談を行なっておりましたが、2023年度は雇用契約スタッフも増員予定です。

地代家賃

2022年度は、事務局・サクラソウと新たにすずなりランタンが増えました。サクラソウは2022年度移転も行い、それに伴う敷金礼金等初期費用も含んでいます。

消耗品費

新規事業開始やサクラソウ移転に伴い、机や食器、布団など必要備品を多数購入しました。

食材費

スイートピーやミモザなど活動の再開や新規事業秘密基地すずらんの開始に伴い、食材購入費も増加しました。そんな中、地域の方から食材のご寄贈もいただき、食材費をおさえながら活動ができております。

修繕費

すずなりランタンの全面改修工事を行いました。「空き家バンク京都」様にご尽力いただき、とても快適な空間で過ごせるようになりました。ありがとうございます。

社会保険労務士顧問料

スタッフの増員と、若者からの就労相談の増加に伴い、社会保険労務士と顧問契約をいたしました。



生きる基盤を失った若者の生活支援事業助成

2022年度新規事業は、休眠預金を活用して開設準備・実施いたしました。



Special Thanks !

—花束会の皆さま—

🌸 ご寄付・プレゼントを くださった皆さま

- *単発のご寄付をくださった皆さま
- *Amazonの欲しいもののリストからプレゼント
してくださった皆さま
- *服や食料など物品をご寄付してくださった
皆さま

🌸 マンスリーサポーターの皆さま

- *毎月定期でご寄付をくださる皆さま
- *2022年度新規でマンスリーサポーターに
加入してくださった皆さま

🌸 saculaの活動にご協力してくださった 皆さま

- * 西京区・下京区の地域の皆さま
- *ボランティアとして活動を盛り上げてくださった
皆さま
- *saculaとコラボして活動してくださった皆さま



2022年度
あたたかい気持ちで
支えてくださり
ありがとうございました

花束会 会員募集

【花束会】って???

「コミュニティ・スペース sacula」の応援チームです！

あなたもステキな花束の一輪になりませんか？

おすそわけやボランティア応募は、
随時メール・LINEにて承っております。



単発のご寄付はこちらから

【京都銀行】

京都駅前支店

普通 3502186

トクヒ) コミュニティ・スペースsacula

【ゆうちょ銀行】

記号：14450

番号：45592981

トクヒ) コミュニティ・スペースsacula

【ゆうちょ以外の場合】

店名：四四八（普通）

口座番号：4559298

ご寄付いただきました際、お手数をおかけいたしますが、メール
もしくはお電話にてご連絡いただけますと幸いです。

マンスリーサポーター

クレジット寄付サイト

「Congrant」を通じて活動を
支えてくださる方を募集しています。



月々250円から
寄付することができます。
こちらのQRコードから
申し込みできます。

プレゼント

子ども・若者へのプレゼントを

「Amazonほしいもののリスト」から
贈ることができます。



こちらのQRコードから
贈ることができます。



花束会の皆さまには、年度報告書と
4期に一度ニュースレターを送らせていただきます。

あたたかいお気持ち、ありがとうございます。
これからも、皆さまと共に歩いていけるよう
スタッフ一同邁進してまいります。

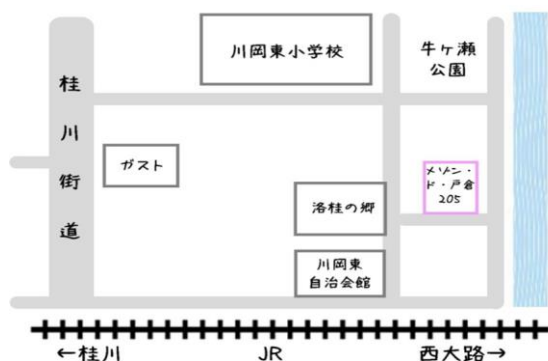


saculaさんのSNS

日々の活動や月1回配信の【今月のsaculaさん】
ハンドメイドのイベント情報などcheck！



【コミュニティ・スペース sacula 事務局】



〒615-8031
京都市西京区牛ヶ瀬林ノ本町42
メゾン・ド・戸倉205



sacula.office@gmail.com



090-9338-0393（法人専用携帯）

【カフェバー&レンタルスペースすずなりランタン】



〒600-8837
京都市下京区夷馬場町45-10



080-7835-8318（店舗専用携帯）